

プログラム概要：主に知的障がいのある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援(補助)、知的障がいのある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援(補助)

実習先：ワークイン関前、ななほしワークス、ワークイン中町、八幡作業所、千川さくらんぼクラブ
実習先情報：社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
参加人数：1名
学部学科：日本文学文化学科
実習期間：令和6(2024)年8月26日(月)～9月18日(水)
本学担当教員：本多 勇(通信教育部人間科学科)

武蔵野千川福祉会 ワークイン関前 フィールド・スタディーズ実習成果報告

○はじめに

私は、障がい者福祉施設ワークイン関前で17日間実習を行いました。作業をはじめとした利用者の方々との交流を通して障がいを持つ人々とのかかわりについて理解を深めることができました。

○実習内容

支援員の方々の指示を聞き、利用者の皆さんと一緒に作業を行いました。作業の内容は、丁合・封入・重量検査・封緘・ラベル貼りなどでした。

○提案したこと、発信したこと、など

部外者である私を、利用者の皆さんは初日から温かく迎えてくださいました。挨拶や休憩時間でのお話など、素敵な思い出をたくさんいただきました。

「障がいを持っている」というだけでかかわることを拒否してしまうのは、おいしいことだと、実際にかかわらせていただいた一個人として、強く思います。

○経験したこと、学んだこと、など

作業所はお仕事をする場であるため、実習前は厳しいところなのではないかという先入観を持っていましたが、実際は支援員の方々が利用者さんに対して「上手」や「頑張り」というような温かい声掛けをなさっていて、それがとても印象に残っています。利用者さんが安心して活動できる環境だと思いました。

利用者の方々はお仕事をしにいらっしゃっているため、「利用者」というくくりであることに疑問を持っていましたが、実際に目で見たことで、職員の方々の検査や計画立てがあつてこそのものであると理解しました。

○今後の展開、今後の学び、など

今回、「健常者が障がいを持つ方々に対して何ができるのか考える」という目標を設定し、実習に挑みました。前述した要素を含め、一個人として出した答えとしては「安心して働くことのできる環境づくり」がその一つではないかと考えました。得た答えに対する探求や新しい答えを見出すために、今後、支援施設やイベントのボランティア募集などがあれば、積極的に参加したいです。

また、文学部の学生として、今回の経験を文字として残し、何かに役立てられたらとも考えています。

○担当教員コメント（担当教員：通信教育部社会福祉専攻・本多 勇）

長期FS実習、お疲れ様でした。それぞれの施設（事業所）で過ごさせていただく中で、多くの学びを得られたことが伝わってきました。

事前学修では、「働くこと」「暮らすこと（生活）」「働くことや暮らすことを支えるのに大事なこと」について考え、FS実習の準備としました。

最初は初めての経験で驚くことばかり、だったそうですが、利用者のみなさんの名前と顔も一致し、実習期間の終わるころには後ろ髪をひかれるような気持ちになったと報告していました。仕事を任されることの責任感についても言及していました。障がいのある人を、個性を持った個人として認識することの重要性について理解を深めたようです。

千川福祉プログラムに参加された皆さんは、それぞれに「障がいのある方々」への印象や姿勢が大きく変わったことが伝わってきました。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

フィールド・スタディーズ実習をお受けいただいた、社会福祉法人武蔵野千川福祉会およびワークイン関前のスタッフのみなさま、利用者のみなさまに、心より感謝いたします。



武蔵野千川福祉会 社会福祉施設サポートインターシップ

- プログラム概要：主に知的障がいのある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援（補助）、知的障がいのある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援（補助）
- 実習先：ワークイン関前、ななほしワークス、ワークイン中町、八幡作業所、千川さくらんぼクラブ
- 実習先情報：社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
- 参加人数：1名
- 学部学科：人間科
- 実習期間：令和6（2024）年8月26日（月）～9月18日（水）
- 本学担当教員：本多 勇（通信教育部人間科学科）

武蔵野千川福祉会 八幡作業所 フィールド・スタディーズ実習成果報告

○はじめに

今回、武蔵野千川福祉会が運営する就労継続支援B型の作業施設で約17日間の実習をした。知的障がいや発達障がいを持っている人がどのように課題を持ち、働いているのか知りたいと思い、このFSを選んだ。

○実習内容

利用者方と一緒に作業したり、そのサポート。業務内容はダイレクトメールやカード等の丁合、封入、チェック、封緘、ラベリング。

○経験したこと、学んだこと

様々なノンバーバルコミュニケーションを経験した。例えば、言葉を話すことに難がある利用者が「手袋を着けたくない」という際にジェスチャーや目線、声量の高さ強さで伝えてくれた。利用者のほとんどは言語によるコミュニケーションに難があり、Yes、Noと言った簡単なジェスチャーを作業所で統一することにより、利用者同士や職員とコミュニケーションがし易くなっていると感じた。また、全体を通して障がいに焦点を当てすぎると、本来のその人の魅力や良さに気づきにくくなる事を学んだ。そして約3週間の間多くのことを経験し、学ぶことができたが、まだまだ分からないことが多くある。

○今後の展開、今後の学び

今後、人と接する上で、今回の経験は私にとって大いに役立つと考えている。特に、利用者一人ひとりの特性や状況を理解し、柔軟な接し方をすることができるようになったことは、今後の人間関係において非常に重要なスキルだろう。実際に、言葉だけではなく、ジェスチャーや出来事や行動から相手の意図を汲み取ることができた体験は、私にとって大きな自信になり、今後のコミュニケーションなどで勇気となるだろう。

○まとめ

約3週間ほどFSに参加したが、いまだに声掛けや対応などはわからないことだらけだ。利用者もロボットではないため、日々考え方や思考も変化してくる。正解はないが、それに対応する適切な方法などはいまだにわからない。成長したこととしては、対応方法と集中力の使い所だと考える。わからないことはまだまだ多いが、顔を近づけて話す、目を見て話す、叱るときは一回きり、触る前や話す前に名前を呼ぶ、など色々と最初よりもできるようになったと感じる。私がこのFSを選んだ理由である障がいのある人がどのように働いているのかを知ることができた。

そして、この対応などは障がいを持っている人以外にも有効であり、少なくとも何らかしらの形で役に立つと考える。特に多感な時期である幼児期や思春期の子どものカウンセラーになったり、普通に接する機会があれば参考にして、対応していきたいと考える。今回得たものは、B型支援の作業所のみでしか扱えない能力ではない。今後はこの能力を維持し、発展できるようにしていきたい。

○担当教員コメント（担当教員：通信教育部社会福祉専攻・本多 勇）

長期FS実習、お疲れ様でした。それぞれの施設（事業所）で過ごさせていただく中で、多くの学びを得られたことが伝わってきました。

事前学修では、「働くこと」「暮らすこと（生活）」「働くことや暮らすことを支えるのに大事なこと」について考え、FS実習の準備としました。

実習前に「知りたいこと」を整理し目標を立てた項目を学ぶことができたようです。一方で、実践の現場にもわからないことがたくさんあること、「無知の知」にも気づきが得られたとの報告がありました。また、「障がいを知る」ということではなく、「（障がいのあるなしに関わらず）相手その人を知る」ということが重要であるということの気づきもあったようです。

千川福祉会プログラムに参加された皆さんは、それぞれに「障がいのある方々」への印象や姿勢が大きく変わったことが伝わってきました。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

FS実習をお受けいただいた、社会福祉法人武蔵野千川福祉会および八幡作業所のスタッフのみなさま、利用者みなさまに、心より感謝いたします。



武蔵野千川福祉会 社会福祉施設サポートインターシップ

プログラム概要：主に知的障がいのある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援(補助)、知的障がいのある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援(補助)

実習先：ワークイン関前、ななほしワークス、ワークイン中町、八幡作業所、千川さくらんぼクラブ

実習先情報：社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

参加人数：2名

学部学科：日本文学文化学科、法律学科
ウェルビーイング学科

実習期間：令和6(2024)年8月26日(月)～9月18日(水)

本学担当教員：本多 勇(通信教育部人間科学科)

武蔵野千川福祉会 ワークイン中町 フィールド・スタディーズ実習成果報告

〇はじめに

今回、社会福祉法人武蔵野千川福祉会が運営するワークイン中町へ実習に行き、障がいを抱える利用者さんと共に働きながらさまざまなことを学んだ。

〇実習内容

ダイレクトメールや教育新聞などの封入・封緘の仕事の他に、曜日ごとに違う活動を行った。活動の内容は、美術、運動、音楽、生活学習、課題学習などであった。

〇提案したこと、発信したこと

提案や発信はなかったが、職員の方に言われ活動中に意識したことはいくつかある。例えば、話すときに目を合わせるとしっかり聞いていると意思表示できる場合がある(目をみられることに抵抗がある利用者さんもいたため人によるものである)ことや、仕事ができるとき、頼み事に答えてもらったときなどに感謝を言葉にして伝えることは自身につながるため、毎回しっかりとお礼を言うことなど、当たり前ではあるがどれも大切なことであり、利用者の方とのコミュニケーションをとる際に必要なことである。

〇経験したこと、学んだこと

知的障がいや自閉症、ダウン症の方々との作業や活動を経験し、コミュニケーションを図るのに苦労した。問いかけや返した言葉に対して返事がない方、上手く喋れない方が多く、自分のルーティーンを守りたい方もいるため、信頼関係が築けていない私たちが、コミュニケーションをとることは難しいことだった。事業所の職員の方からのアドバイスを受け、少しずつコミュニケーションをとることに慣れ、相手の気持ちや行動を考えてコミュニケーションをとることを学んだ。

○今後の展開、今後の学び

障がいのある方が利用する施設という特別な場所での実習であったが、障がいがあるというだけで、人と関わるということには何も違いはなく、ここで学んだことは、今後の自分達の大学生活や将来のキャリアに役立つことだった。

例えば、相手に合わせ、コミュニケーションのとり方を変えることは、相手のことを知るきっかけに繋がり、相手との関係をよくすることができたり、作用や活動の効率を上げる一助になったりする。このようなコミュニケーションの基礎的な部分は、今後、社会で必要とされるものだ。

○まとめ

相手のことを考えながらコミュニケーションをとることや、自分の主観などにとらわれず、自分から知ろうとする気持ちが最も重要であると考えます。

○担当教員コメント（担当教員：通信教育部社会福祉専攻・本多 勇）

長期FS実習、お疲れ様でした。それぞれの施設（事業所）で過ごさせていただく中で、多くの学びを得られたことが伝わってきました。

事前学修では、「働くこと」「暮らすこと（生活）」「働くことや暮らすことを支えるのに大事なこと」について考え、FS実習の準備としました。

対人支援の実践の場で過ごすことで、あらためて人間関係・社会関係のなかで「人に関心を持つこと」の重要性を認識したこと、相手に対する第一印象での「偏見」を持つことの再認識があったようです。同じ場において、相手への関心を向けていると、関わり方が変わり、印象が変わる、との報告がありました。

障がいのある人との関わりも「人と関わる」ことと何も違いがないことに気付いたと報告がありました。障がい者支援の現場で求められる、コミュニケーションの取り方や相手を知ろうとする気持ち（姿勢）は、社会で求められることそのものと同じであることに気づきがありました。自分から一歩踏み出して、積極的にコミュニケーションをとることの重要性についても言及されていました。

千川福祉プログラムに参加された皆さんは、それぞれに「障がいのある方々」への印象や姿勢が大きく変わったことが伝わってきました。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

フィールド・スタディーズ実習をお受けいただいた、社会福祉法人武蔵野千川福祉会およびワークイン中町のスタッフのみなさま、利用者みなさまに、心より感謝いたします。



武蔵野千川福祉会 社会福祉施設サポートインターシップ

プログラム概要：主に知的障がいのある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援(補助)、知的障がいのある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援(補助)

実習先：ワークイン関前、ななほしワークス、ワークイン中町、八幡作業所、千川さくらんぼクラブ

実習先情報：社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

参加人数：2名

学部学科：日本文学文化学科、ウェルビーイング学科

実習期間：令和6(2024)年8月26日(月)～9月18日(水)

本学担当教員：本多 勇(通信教育部人間科学科)

武蔵野千川福祉会 千川さくらんぼクラブ フィールド・スタディーズ実習成果報告

○はじめに

今回、私たちは社会福祉法人武蔵野千川福祉会が運営するさくらんぼクラブに伺い、実習として、小学生から高校生の様々な知的障がいのある子どもたちと交流をしました。



○実習内容

実習内容としては大きく分けて2つあり、1つはプログラムの補助、もう1つは子どもたちとの交流です。プログラムは子どもたちが夏休み期間の8月の間は午前と午後の2回、9月に入ってから1日1回行われます。曜日ごとに「運動」「音楽」「アート」など、だまかにテーマが決まっており、それぞれ職員の方が準備したプログラムを行います。実習開始時刻から子どもたちが来るまでの間にプログラムの準備を手伝ったり、プログラムの中では子どもたちと一緒に参加したりしながら、円滑にプログラムを進められるようにサポートを行いました。子どもたちの交流についてはプログラムの最中はもちろん、プログラムの時間以外にも、子どもたちと一緒にご飯を食べたり、一緒になって遊んだり、お話をしたりして子供たちとの仲を深めました。

○経験したこと、学んだこと、など

(池田) 支援や指導においては、行動そのものではなく、その背景にある動機や特性に注目し、柔軟に対応することが重要であると感じました。同じ行動でも、個々の動機が異なる場合、対応も異なるべきだと学びました。例えば、「人の手を握ろうとする」という同じ行動でも、職員は、ある利用者の方は受け入れ、別の利用者にはしてはいけないと伝えていました。これは、前者の方がその行動をコミュニケーションの手段として行う一方、後者の方は感触遊びとして行っており、後者の場合は日常生活で他人の体を突然触る問題につながるため、注意が必要とされたためです。利用者の困難が生じた際に適切に支援を行うためには、観察を重視し、利用者の状態に合わせて支援方法を柔軟に更新していく必要があると感じました。

(山田) この実習を通して、知的障がいを持つ子どもと自分との「違い」について学び、考える機会になりました。千川さくらんぼクラブには、中学生から高校生までの利用者がいて、その中には私と1歳しか変わらない18歳の方もいました。その方はあまり話さないため、コミュニケーションが少し難しかったです。しかし、年齢が近いこともあり、幼い頃に流行った歌やダンスを通じてコミュニケーションを取ったり、質問をわかりやすくする工夫をすることで、少しずつその方のことを知ることができました。最初は「支援者がいなければ何もできない」と思って、少し子ども扱いしてしまっていた部分がありました。しかし、彼女と接するうちに、彼女にも将来の夢があったり、好きなことに一生懸命だったり、自分と似たところや尊敬できる部分があることに気づきました。それ以来、彼女を「知的障がい児」としてではなく、ただの「年下の友達」として見るようになりました。この経験を通じて、知的障がいがあるという面だけでなく、その人自身をちゃんと見ることの大切さに気づきました。また、自分の偏見を取り除くことが、他の利用者とのコミュニケーションを取るうえでも役立つと学びました。

○今後の展開、今後の学び

千川さくらんぼクラブに通い続けることで少しずつ関係を構築できたり、少しずつ利用者への理解を深められたりしたことを通じて続けることで得るものの大きさを実感しました。自分が、今続けている学童保育でのアルバイトを今後も可能な限り継続していこう、と思います。

今まで、街中で見かける知的障がいのある人たちに対して「怖い」というような身勝手な負の印象を抱いていました。それが、今回の実習を通してそういった人達への理解を持てたように感じます。彼らと自分を比べたことによって、接し方や気の配り方への変化があり、今まで自分が考えていた社会というものが全て健常者によって構成されていたと気づきました。これから、社会全体のウェルビーイングを探求していく中で、以前の私のように知的障がいへの理解が乏しい人と当事者が共存するよい状態とはどのようなのか、探していきたいと思えます。

○担当教員コメント(担当教員:通信教育部社会福祉専攻・本多 勇)

長期FS実習、お疲れ様でした。それぞれの施設(事業所)で過ごさせていただく中で、多くの学びを得られたことが伝わってきました。

事前学修では、「働くこと」「暮らすこと(生活)」「働くことや暮らすことを支えるのに大事なこと」について考え、FS実習の準備としました。

実習を通じて「支援する側-される側」という一方通行の関係ではなく、「人と人との関わり」という双方向の関係性があることに気づき、それを自身の生活に活かしたい、とのことでした。

また、実習中はコミュニケーションの取り方に悩みつつ、最終的には「障がいのある人(子ども)」への目線が大きく変わったこと、自身のなかの「思い込み」に気付いた、と報告がありました。「バイアス(偏見)」を持っていることの意識の重要性にも気づかれたようです。

千川福祉会プログラムに参加された皆さんは、それぞれに「障がいのある方々」への印象や姿勢が大きく変わったことが伝わってきました。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

フィールドスタディーズ実習をお受けいただいた、社会福祉法人武蔵野千川福祉会および千川さくらんぼクラブのスタッフのみなさま、利用者みなさまに、心より感謝いたします。

